

アンソニー・レーク事務局長 & アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が『女川中学校』を訪問

2月25日、レーク事務局長は宮城県を訪問し、東日本大震災を教訓に1000年後の命を守ろうと『いのちの石碑プロジェクト』を進めている女川中学校の取り組みを視察しました。3年2組の教室ではアグネス大使とともに生徒といっしょに給食（ラーメンや笹かまももありました）を楽しみました。昼食後は、津波対策実行委員会の代表6人の案内で、昨年11月に学校敷地内に建立された石碑を見学しました。“夢だけは壊せなかった 大震災”と刻まれていました。



震災の年の4月、1年生に入学した子どもたちは、今3年生。ユニセフから学用品の支援や入学式にも出席しましたね～。あの時から生徒自身で考え、町内21浜の津波到達点に石碑を建てる企画。費用1000万円を募金で集めました。20歳までに全部の石碑を建てるのが目標とのこと。レーク事務局長は生徒たちひとり一人に励ましの言葉をかけ、「2015年3月に仙台市で開催される世界防災会議で、子どもたちの声を聞いてもらえるような仕組みを考えている。石碑を立てたみんなにも参加してほしい」とも話されました。女川を後にし、次は仙台市の七郷小学校を訪問。41号に掲載した「未来の七郷まちづくり」の発表を1時間かけて、熱心に聞かれていました。事務局長の質問に、緊張しながらもきちんと答えている6年生はとても見事でした。自信を持って考えたまちづくり構想なのでしょう。ここでも防災会議で世界のみなさんに知らせたいと、参加を呼びかけていました。最後にアグネスさんが「ふるさと」をみんなといっしょに歌いました。レークさんへのプレゼントでもあったようです。この後は、レークさんは仙台市長を表敬訪問されたようです。

「宮城のお父さんフォーラム」 @エル・パーク仙台

2月1日、東日本大震災で父子家庭になった父親らの支援策を探るフォーラムが開催され、岩手・宮城・福島3県の父親が登壇し、それぞれの立場での悩みが話されました。陸前高田市のお父さんは、小学6年の長男と仮設住宅で暮らし、子育てと仕事の両立のむずかしさについて話され、石巻市の仮設住宅で自治会長を務めるお父さんは、集会所を子どもの遊び場として開放する取り組みを紹介されました。郡山市の中学校教諭のお父さんは、妻子が避難している埼玉に居を構えたいが、公共の支援は乏しく、転職する度胸もないと話されました。マザー・ウイング、ユニセフ、新座子育てネットワークの共催で開催し、50名が参加しました。

「子育て支援シンポジウム」 @エル・パーク仙台

2月2日、宮城県保険医協会が主催する11回を迎えるシンポジウムが開催され、90名が参加しました。今年のテーマは「いま 子どもたちに起こっていること」。今年度のテーマは「子どもと貧困」について中学校の先生より、「現代子育て・子育て」を小児科医の先生が、「世界一寂しい・世界一自尊心の低い日本の子どもたち～その背景にあるもの」を仙台医療センターの田澤氏が報告され、意見交換や異職種連携とネットワークを広げるための交流が行われました。（宮城県ユニセフ協会は後援団体のひとつでした）



東京で「2014年度 協定地域組織 全国事務局長会議」が開催されました

2月13日～14日、ユニセフハウスに公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織の事務局長が一堂に会しました。全国に25の道府県協会があります。今年度のユニセフ本部の基本方針、日本ユニセフ協会の各事業部の方針が示され、各地域組織から質問や意見など出され、活発な話し合いが行われました。特に2014年いっぱい終了する『カード事業』について、それぞれに理解が得られ、2015年からの活動内容については工夫が必要になります。ボランティア中心に出前学習会など啓発活動や、写真パネル展などを数多く行いましょうか……

宮城県ユニセフ協会 〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協ウイズ1F

事務所：月曜日～金曜日

Tel 022-218-5358 Fax 022-218-5945 E-mail sn.municef_miyagi@todock.jp

10:00～17:00

新しい情報はホームページが便利です <http://www.unicef-miyagi.gr.jp>

上記以外 070-6617-6284(五十嵐栄子)